

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 66
2021.10

TOPICS

1

令和3年度秋季岡山大学入学式、大学院入学式を挙行



本学は10月1日、秋季入学式を創立五十周年記念館で行い、新たに入学したグローバル・ディスカバリー・プログラム学生24人と大学院生118人が大学生活へのスタートを切りました。今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、出席者を新入生と学内関係者のみに制限した上で、開催しました。

榎野博史学長は式辞で「今日、あなたの学歴の新たな入り口に立っています。一步踏み出して、新しい道を切り開くことに挑戦しましょう。私たちはサポートします！」と新入生を激励。新入生を代表して、グローバル・ディスカバリー・プログラムの久保よつ葉さんが「私たちは現在直面している国際的、社会的な課題を解決するために、より豊かで多様な視点を求めクラスメートと協力していくことを誓います。私たちはお互いに助け合い、探究心を持って勉学に取り組み、持続可能な未来に貢献する決意を新たにしています」と宣誓しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10542.html



TOPICS

2

「共育共創 commons」建設に向け、隈研吾特別招聘教授（設計監修）が来訪し、榎野学長らと意見交換

10月12日、津島キャンパス工学部1号館において、建築家の隈研吾氏（特別招聘教授）が来訪され、本学が8月に設計施工一括方式にて発注し、清水建設株式会社と契約した、木造CLTパネル工法の「共育共創 commons」（監修：隈特別招聘教授）の設計状況について、本学の榎野博史学長らと意見交換を行いました。

榎野学長のあいさつの後、清水建設株式会社の設計担当者から隈特別招聘教授が作成した基本計画書をもとに設計を進める中での改善点などの説明があり、今後の設計完了に向けた意見交換を行いました。隈特別招聘教授からは、持参いただいた修正点を反映した模型で説明をいただきました。隈特別招聘教授から、「共育共創 commons が学生にとっての活きた教材になり、またこれからの岡山大学が地域に貢献するための起爆剤になることを期待したい」との話がありました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10577.html



Pick up!

令和3年度岡山大学大学祭

津島祭 11/7 am 9:00～11/30 オンライン大学祭特設ページを開設

●11/7 プロライブ【生配信】

テレビで引っ張りだこのハナコ、四千頭身、ぼる塾の3組がネタを披露！

●11/8～15 カウントダウン企画

岡山で活躍中のアナウンサーによる企画紹介動画を毎日1つずつ投稿するほか、カウントダウンスタンプラリーを開催。全問正解すると、抽選で豪華景品をプレゼント！

●11/16、17 校友会ステージ企画【生配信】

岡山大学の部活やサークルによるパフォーマンスを行います。合唱や演奏だけではなく、チャリダーの演技や武道系クラブの演舞など幅広いパフォーマンスを披露！

※鹿田祭は中止

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10566.html



TOPICS

3

バドミントン部の高橋さん、弘光さんが 全日本学生バドミントン選手権大会出場へ

バドミントン部の高橋哲平さん(工学部4年)と弘光佳乃さん(教育学部2年)が、8月14～19日に開かれた第65回中四国学生バドミントン選手権大会に出場し、高橋さんは男子シングルスで準優勝、弘光さんは女子シングルスで第3位となり、それぞれ10月に開かれる第72回全日本学生バドミントン選手権大会(インカレ)への出場が決まりました。

今回の結果を受けて、高橋さんは「中四国バドミントン選手権大会で2位になって素直に嬉しいです。これまで岡山大学で部活動を頑張ってきて良かったと感じました。初めての全国大会なので、楽しみながら1勝を目指して頑張りたいです」、弘光さんは「中四国大会まではコロナの影響で練習できない時期もありましたが、限られた時間の中で厳しい練習をし、共に練習している部員や応援のおかげで3位に入ることができました。全国大会は自分にとっても初めての経験となりますが、このような状況の中で大会を開催して下さることに感謝し、悔いの残らないよう頑張りたいと思います」と話していました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10561.html



TOPICS

4

岡山大学病院に「総合トリアージ・ステーション」が完成



岡山大学鹿田キャンパス内に、発熱・下痢・嘔吐などの感染症の症状を有する“感染症疑い”患者さんに対して、問診や検査、治療ができる「総合トリアージ・ステーション」を新築しました。総合トリアージ・ステーションは、190平方メートルの建物内に、患者さん用の広い待合スペース、診察室2部屋、スタッフルーム、検査室などを整備。“感染症疑い”患者さんに対する診療のみならず、感染症に関する教育などにも利用します。併せて、巨大地震をはじめとした自然災害発生時には医療・治療の優先度を決定するためのトリアージスペースとして展開できるなど、非常時でも病院が診療を継続できるような“診療のSDGs”を目指した設計となっています。

本施設の建設にあたっては、コロナ禍においても院内感染のリスクを回避し、地域医療の最後の“砦”としての機能・役割を発揮するとともに、大学の教育・研究機能を引き続き確保することを目的として、文部科学省から全国の35国立大学に交付された助成金を活用しています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10552.html

PRESS
RELEASE

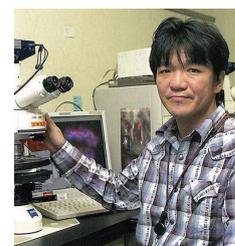
個人で手軽にAI(人工知能)による画像自動分類が可能に！ ～様々な分野の研究の省力化に貢献～

近年、生物学分野においても自動撮影機能つき顕微鏡が身近になり、自動で大量の画像が取得可能になってきています。反面、その解析は高価な解析システムまたは人手を要することが多く、大量の画像を低コストで自動解析するシステムが必要とされています。

岡山大学資源植物科学研究所の長岐清孝准教授らは、無料または安価なアプリケーションを組み合わせ、身近にあるMacで機械学習を行い、分裂細胞を含む画像の分類ができる方法を開発し、本研究成果は10月14日付で英国の専門誌「*Chromosome Research*」に掲載されました。

この方法を用いれば、個々の研究者が、専門家の助けや高価なコンピュータ無しに、自身のもつ画像データを元にAIによるオーダーメイドの画像自動分類機が手軽に作成できるので、様々な研究分野や研究以外の目的にも利用可能です。研究においては、このような簡易画像分類機の潜在的なニーズは多く、研究の省力化に貢献できる方法です。機械学習は、顔認識や自動車の自動運転時の物体検出に利用されている技術ですので、研究にかぎらず、皆さんの生活の中のオーダーメイドの「これを見つけて！」を実現する方法になるかもしれません。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id886.html



長岐准教授

